



「句集はどこへ行くのか」

そもそも近世俳諧の時代、発句集は一門の合同句集が一般的でした。

個人句集の発展は、きわめて近代的なメディア文化の所産と考えられます。

時は移り、現代。

インターネットの普及にともない、紙の本をめぐる状況はおおきく変わりつつあります。

出版不況といわれ、町の本屋が姿を消しつつある一方、新たな試みをする個性的な書店も増えています。

このような時代のなかで、「句集」文化も変化を迎えています。

句集はどこへ行くのか。誰によって、どう読まれるのか。

さまざまな視点から話題提供をいただきつつ、「句集」について考えます。

話題提供

田島健一・鴫田智哉・福田若之・宮崎莉々香・宮本佳世乃

八上桐子・野口裕・牛隆佑・岡田一実・久留島元、ほか

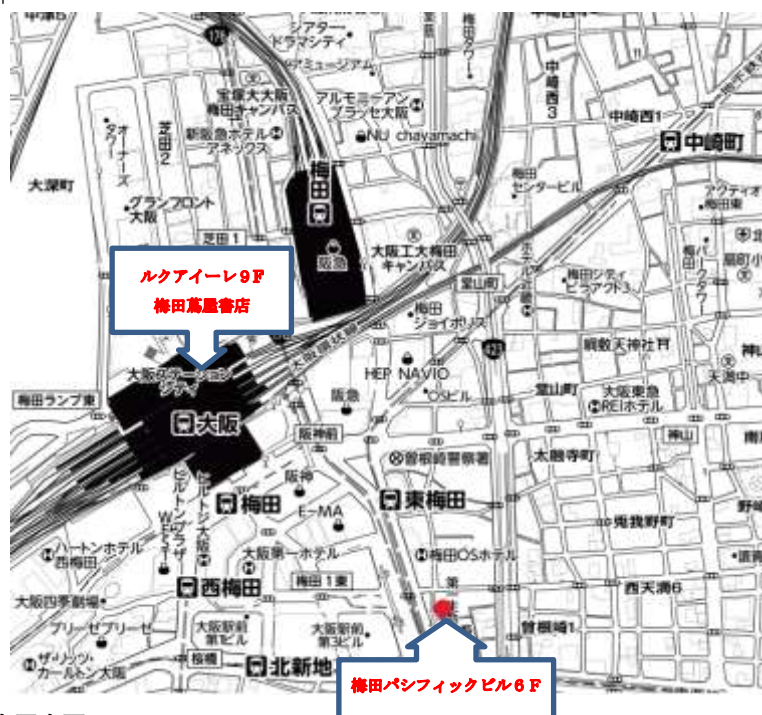
日時：2018年7月21日（土）14:00～

会場：梅田パシフィックビルディング B室（6F）（大阪市北区曽根崎 2-5-10）

地下鉄谷町線東梅田駅7番出口、徒歩3分／JR北新地駅F85出口、徒歩3分

参加費：800円 申込・連絡先：seinenbu@kangempai.jp

主催：関西現代俳句協会青年部



「オルガンミーティング大阪」 合同企画

『オルガン 14号』刊行記念トーク&句会 梅田 蔦屋書店主催／関西現代俳句協会青年部共催

7月22日（日）13:00～ 会場／申込 梅田 蔦屋書店

申込・投句は蔦屋書店 HP (<http://real.tsite.jp/umeda/event/2018/06/event-0722.htm>) まで

